

令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞記念公演 新倉健「音の個展IV」 オペラ「窓-Windows-」
日時	令和5年5月21日(日) 1回目:午後1時半開演 2回目:午後4時開演
会場	倉吉未来中心 小ホール
実施者(団体)	新倉健「音の個展IV」 オペラ「窓-Windows-」実行委員会
補助金額	1,000千円

鳥取市在住の作曲家 新倉健氏によるオリジナルオペラ「窓-Windows-」を、主に鳥取県内で活躍するキャスト、合唱、オーケストラにより上演した。オペラ「窓-Windows-」は、窓にまつわる3つの不思議な物語からなるオムニバス・オペラで、都会と故郷、孤独と共存、自然破壊への警告などの現代的問題を提起する内容となっている。

今回の公演では、2011年の初演よりオーケストラをスケールアップするとともに、出演者に県内の若手アーティストを多く起用し、県外から招聘した演出家や指揮者の指導を受けるなど、県内の文化活動者の育成の機会ともなった。

新型コロナウイルスの感染対策が緩和された直後でもあり、観客のみならず出演者にとっても、新鮮で充実した経験を得ることができた。2回公演で360人の来場があり、鑑賞者からは、「音、物語、映像のハーモニーが素晴らしかった」、「オペラと聞くと敷居が高かったが、現代的な内容でよかった」、「初めてオペラを体験して、生の声の音量と美しさに感動した」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	言水抱泉書展 -わたしを形成してくれたもの-
日時	令和5年6月8日(木)～11日(日)
会場	鳥取県立博物館第3展示室
実施者(団体)	言水 さつき(抱泉)
補助金額	300千円

岩美町在住の書道家 言水抱泉氏による自身初の個展。令和4年度に鳥取市文化賞を受賞したことを契機とし、書の魅力の発信と自らの挑戦の場として、「わたしを形成してくれたもの」をテーマに、大作から小作品まで、新作を含む29点が展示された。中でも、「父のことばより」と題し、「海みたいな心の持ち主になれ」と書かれた縦2.4メートル×横9メートルの作品など、大作7点が一同に展示されるとともに、淡墨・濃墨・少字数・多字数・臨書作品など、様々なジャンルの作品が展覧され、多彩な書の世界を楽しめる機会となった。

期間中は「第50回記念山陰書人社展」が併催され、1,517 人の来場があり、鑑賞者からは、「字の配置や文字の大きさ、強弱で力強さや優しさが伝わった」、「思いが文字にのっているように感じた」といった感想があった。



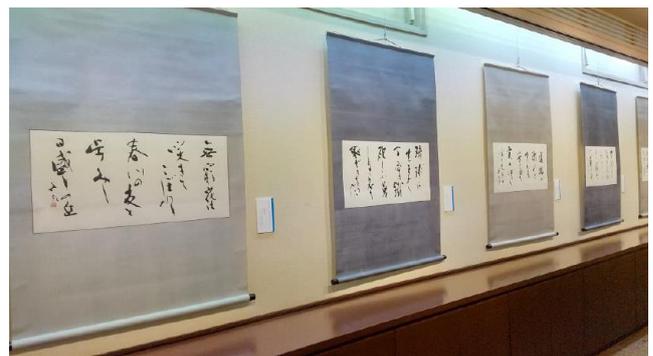
令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	住川英明書展 - 池畔好日 -
日時	令和5年8月29日(火) ~9月3日(日)
会場	鳩居堂画廊4階(東京都中央区銀座)
実施者(団体)	住川 英明
補助金額	300千円

鳥取市在住の書家 住川英明氏が、自詠の短歌を漢字仮名交じりの書にしたための作品展で、テーマ「池畔好日」のもと、湖山池を中心とする鳥取県東部の風光の中で育まれた、作者の人と自然に対する思いを表現した作品22点が並んだ。

現在、鳥取大学名誉教授である住川氏が、同大学退職を機に、2022年12月に鳥取大学広報センターにおいて開催した個展を改めて全国展開するもので、書芸術の中では比較的新しい領域である、現代の言葉を書く「漢字仮名交じりの書」制作の成果を発表するとともに、自詠自書を試みた先進性のある展示内容となった。

銀座の鳩居堂画廊で開催され、書の愛好家のみならず、関東在住の鳥取県ゆかりの方など、約240人の来場があり、鑑賞者からは、「初めて書の個展に行ったが、全ての書に作者の思い、解説があり、すごく新鮮で楽しかった」、「一つ一つの作品から故郷である鳥取の自然と、その景色が想起され、改めて鳥取は本当に素敵な場所であり、かけがえのない故郷であることを感じた」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	野原武伸・鳥取サクソフーンクラブジョイントコンサート
日時	令和5年9月23日(土) 午後1時半開演
会場	わらべ館 いべんとほーる
実施者(団体)	鳥取サクソフーンクラブ
補助金額	46 千円

鳥取サクソフーンクラブは、鳥取県在住のアマチュアサクソフーン奏者によるグループで、(財)鳥取県文化振興財団が実施するとつとりの芸術宅配便事業における学校等での演奏や、コンサート、イベント等での演奏活動を行っている。

今回のコンサートでは、昭和音楽大学講師を務めるプロサクソフーン奏者、野原武伸氏をゲストに迎え、県内在住のピアニスト、岸本聖華氏を加えて、サククス・ピアノ6重奏という珍しい編成で、この編成のために編曲されたコンチェルト(協奏曲)や、比較的新しい楽器であるサクソフーンの歴史において最初期に作られたクラシック曲などを演奏した。

また、演奏会前日には、野原氏による県内高校生を対象としたワークショップも開催した。

当日は、約 60 人の来場があり、「知らない曲が多かったが、それぞれに良さがあり楽しめた」、「サクスの表現の幅広さ、繊細さに気づいた」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	鳥取バロックアンサンブル with 赤津眞言
日時	令和5年10月9日(月祝) 午後2時開演
会場	日本基督教団鳥取教会
実施者(団体)	鳥取バロックアンサンブル
補助金額	54 千円

鳥取バロックアンサンブルは、鳥取市等のリコーダー、チェンバロ、弦楽器奏者によるグループで、今回の演奏会は、ヨーロッパ在住のバロックヴァイオリニスト、赤津眞言氏からの「鳥取バロックアンサンブルの皆さんと一緒に演奏したい」との提案をきっかけに実現した。

演奏会は、響きのよい教会の聖堂で行われ、赤津氏をゲストに、バッハの器楽曲の傑作として名高い「ブランデンブルク協奏曲」から第4番、ヴィヴァルディのリコーダー協奏曲などが演奏された。現代においては、バロック音楽(17世紀初頭から18世紀半ばまでの音楽、有名な作曲家はヘンデル、バッハ、ヴィヴァルディなど)であっても、現代の楽器を用いて演奏されることが多いが、今回の演奏会のように、作曲当時の演奏法や楽器を用いた演奏も行われており、演奏には、古楽器や演奏方法に関する研究や深い知識、技術が必要とされる。

当日は、ほぼ満席となる112名の来場があり、鑑賞者からは「初めてのバロック音楽、未知の領域に触れ、好奇心をかきたてられた」、「楽器同士の音の重なりがとても重厚で教会の中での響きも美しく、うっとりした」といった感想があった。古楽器による演奏を初めて聞いたという来場者も多く、今後は古楽器や演奏方法に関する解説を加えながら、鳥取県内では数少ないバロック音楽の演奏機会を増やしていくことが予定されている。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	アラビアンナイト at 砂の美術館
日時	令和5年10月21日(土) 午後7時開演
会場	砂の美術館(鳥取市)
実施者(団体)	鳥取ダンス協会
補助金額	300千円

「砂で世界旅行・エジプト編」が開催されている鳥取市の砂の美術館において、砂像を背景とした他にはないコラボレーションの中で、県内のダンサーやゲストダンサーにより、ベリーダンスやアラブ音楽が披露された。砂の美術館を会場とした舞台公演は初めての試みであり、会場や舞台設営など苦心した点もあったが、エジプト文化を表現した砂像と、エジプトを発祥とするベリーダンスやダラブッカ(アラブ音楽等に用いられる打楽器)との組み合わせは、出演者と来場者の双方に新たな発見と感動を呼んだ。

当日は約170人の来場があり、鑑賞者からは「ベリーダンスとエジプト砂像がとてもよく調和していた」、「世界の踊りの美しさ、本格的なベリーダンスを見ることができ楽しかった」といった感想があった。

また、翌日には県民ふれあい会館においてベリーダンスを始めとして海外の様々なダンスに触れられるワークショップが開催され、前日に公演でベリーダンスを見てワークショップに参加された方もあるなど、盛況であった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	Opera～s☆コンサート
日時	令和5年11月23日(木祝) 午後2時開演
会場	鳥取市文化ホール
実施者(団体)	EN+ER(エンター)企画
補助金額	149千円

鳥取県出身、在住でクラシック音楽を専門的に学び、県内を中心に活動する声楽家グループ「Opera～s☆(オペラーズ)」によるコンサートで、ソプラノ 尾前加寿子氏・寺内智子氏・中原美幸氏・松田千絵氏、アルト 鶴崎千晴氏、ピアノ 綿口裕美子氏が出演した。

第1部は、日本やヨーロッパ各国を代表する歌曲やオペラのアリアをそれぞれが歌い上げた。第2部の「モーツァルトの百面相」では、モーツァルトが作曲した楽曲をメドレーでつなげながらその生涯を紹介。メンバーがオペラの有名な登場人物に扮して、表情豊かに披露した。また、第3部ではクラシックの名曲や歌謡曲など親しみのある楽曲が、5人による重唱で華やかに演奏された。

当日は約 230 人の来場があり、鑑賞者からは、「美しい声に感嘆し、音楽の喜びを心よりうれしく感じました」、「趣向を凝らしたとても面白いコンサートで、また聴きたい」、「5人の合唱を聞ける機会は少なく、楽しかった」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	国際青少年音楽祭 in 米子の開催と、デツカ・キトカ合唱団(ブルガリア共和国)との相互交流
日時	令和6年3月22日(金)～3月25日(月) (国際青少年音楽祭 in 米子 令和6年3月24日(日))
会場	米子コンベンションセンター 小ホール
実施者(団体)	山陰少年少女合唱団リトルフェニックス
補助金額	55千円

2019年にブルガリア共和国で山陰少年少女合唱団リトルフェニックスとデツカ・キトカ合唱団が共演し交流を深めたことをきっかけに、相互交流の一環として、デツカ・キトカ合唱団を招いた国際青少年音楽祭を米子市で開催したものの。

今回の音楽祭では、日本の民謡や歌謡曲、ブルガリアの楽曲が演奏され、両団体による合同歌唱も披露された。来場者からは、「それぞれの合唱団の歌声に引き込まれた。特にブルガリアの合唱団は聞いたことがない音楽が多く興味を持った。」「米子と外国の合唱団と一緒に‘ふるさと’をうたったときは涙が止まらなかった。」との声もあり、言葉は通じなくても音楽を通じてお互いを知り、興味を持つ機会を広く提供する貴重な演奏会となった。

また、デツカ・キトカ合唱団の滞在期間中には、米子市内の2施設で、2つの合唱団による慰問演奏会が行われ、地域住民との文化交流を深めたほか、団員の技術面の向上を目指し、お互いの合唱団指揮者による指導も行われた。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	尾崎翠記念イベント「尾崎翠のおもかげを探して」
日時	令和5年6月24日(土) 13時開演
会場	岩美町中央公民館 いわみんホール
実施者(団体)	尾崎翠記念イベント実行委員会
補助金額	500千円

岩美町出身で大正から昭和初期に活躍した作家、尾崎翠の顕彰事業。尾崎翠の作品を題材とした映画「こほろぎ譚」(監督:浜野佐知氏)の上映とあわせて、映画監督や出演者によるトークショーやコンサートを行い、幅広い世代に尾崎翠の魅力を伝えるとともに、文学に親しみをもってもらえる機会となった。

当日は、県内外から86人の参加があり、尾崎翠の文学世界に触れるとともに、生前には作家として活動した期間が短く、十分に評価されなかったものの、戦後に再評価が進んだ、尾崎翠を巡るこれまでの歩みを振り返った。

参加者からは、「尾崎翠を知るきっかけになった」、「浜野監督の尾崎翠愛が印象的でした」、「尾崎翠関連のイベントに参加するのはこれで3回目ですが、毎回新たな思考が生まれます」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	第16回全国公募書道展「放哉を書く」
日時	令和5年11月 10日(金)～12日(日)
会場	とりぎん文化会館 展示室、ギャラリー集、宝林堂ギャラリー
実施者(団体)	放哉の会
補助金額	450千円

鳥取市出身の自由律俳人、尾崎放哉の句を題材にした書道作品を全国から募集し、一般の部、高校の部、色紙の部に218人からの応募があり、入選作品など214点を展示した。

放哉大賞鳥取県知事賞には、一般の部は松本李南さん(鳥取市)の「障子しめきって淋しさをみたす」、高校の部は入江佑香さん(鳥取東高)の「夜中の襖遠くしめられたる」がそれぞれ選ばれた。

期間中、鳥取市内の3会場には約860人の来場者が訪れるとともに、出品者からは、「本展を通じて放哉の句について深く考える機会となった。」「放哉誕生の地に来ることができて嬉しかった。」などの声があり、本展の開催が書を通じてより放哉の個性豊かな句に親しむとともに、その功績を県内外へ広く周知する機会の創出につながっている。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	岡本喜八顕彰事業「岡本喜八第100回生誕祭」
日時	令和6年1月20日(土)、2月17日(土)～18日(日)
会場	米子市公会堂 大ホール、米子市立図書館 多目的研修室、ダラズ・クリエイト・ボックス
実施者(団体)	岡本喜八顕彰事業実行委員会
補助金額	245千円

米子市出身の映画監督・岡本喜八氏の生誕100年にあわせてその功績を顕彰することを目的に、1月～2月の3日間にわたり事業が実施された。1月20日には、新たに見つけた岡本氏の若き日の日記をひも解きつつ、岡本喜八の実情と戦中派の心情に迫るトークイベント、2月17・18日には監督作品「JAZZ 大名」にちなんだ JAZZ 演奏などのほか、「独立愚連隊」「日本のいちばん長い日」の上映が行われた。

岡本喜八の認知度が低い若年層などに対し広く顕彰することを目指し、多角的な内容の事業を展開した結果、3日間で合計244名が来場した。来場者からは「岡本喜八監督の映画をもっと観たくなった」「岡本監督が米子市出身だということを初めて知った。素晴らしいイベントに来ることができて充実した休日になった。」などの感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	国際青少年音楽祭 in カナウス 2023 参加と、訪問都市での文化交流
日時	令和5年4月30日(日)～5月8日(月)
会場	リトアニア・カナウス
実施者(団体)	山陰少年少女合唱団 リトルフェニックス
補助金額	300 千円

米子市を中心に活動する山陰少年少女合唱団 リトルフェニックスは、「歌はともだち」を合言葉に、県内外での演奏活動に加え、国際交流にも積極的に取り組んでいる。

今回の交流事業では、2009年以来2度目となるリトアニアに訪問し、同国第2の都市カナウスにおいて、国際青少年音楽祭 in カナウスに参加した。約20分のステージでは、「さくらさくら」、しゃんしゃん傘を用いた「きなんせ節」、扇子を用いた「関の五本松」を披露し、約500名の来場者から、次の曲に進めないほどのスタンディングオベーションを受けた。

海外が初めての団員も多かったが、ホームステイにより各家庭に滞在し、拙い英語ながら、日本からのお土産や、「あやとり」「折紙」などの日本文化を紹介したり、リトアニアについて尋ねたりして交流を深め、多くの学びと体験を得て帰国した。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	鳥取ジュニアオーケストラ 第27回定期演奏会
日時	令和5年8月20日(日)午後2時開演
会場	とりぎん文化会館 小ホール
実施者(団体)	鳥取ジュニアオーケストラ
補助金額	122千円

鳥取市近辺在住の小中学生で構成される鳥取ジュニアオーケストラの定期演奏会は、団員の日頃の練習の成果を発表する年に一度の演奏会である。

第一部として、今年弦楽器を始めたばかりの低学年の子どもたちの「ビギナーズステージ」、第2部として高学年の子どもたちとOBを中心とした「弦楽ステージ」の二部構成とした。

低学年の子どもたちは、初めての大きな舞台に緊張しながらもしっかりと演奏し、また、高学年の子どもたちは、難しい曲に挑戦し、集中練習などで練習を重ね、弦楽の曲の素晴らしさを改めて感じていた。

鑑賞者からは、「子どもたちが頑張っている姿がとてもよかった」、「演奏を聴いて、改めて弦楽はいいなと思った」、「来年もまた演奏会もまたぜひ聴きにきたい」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	夏休みミュージカル体験 演目「ミュージカルコメディ キャンプの大統領」
日時	令和5年9月3日(日)午後1時、午後5時開演
会場	北栄町大栄農村環境改善センター
実施者(団体)	特定非営利活動法人まちづくりネット
補助金額	150千円

県中部地域の小、中学生を対象に、地元を題材にしたオリジナルミュージカルの体験と公演を行い、ミュージカルを通して、豊かな感性を養うとともに、文化芸術活動の次世代を担う人材を養成する機会となった。また、裏方を務める大人のスタッフについても、中部全域から参加があり、公演を支えた。

2回の公演で約250人の来場があり、鑑賞者からは、「ダンスがのびのびしていてとてもよかった」「場面ごとに楽しめる演出でよかった」といった感想があった。一方で、コロナ禍で影響を受けた部分が以前の状態に戻ったわけではなく、今後落ち込んだ観客数と参加者を増やしていく取組が課題となっている。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	鳥取市少年少女合唱団 第42回定期演奏会
日時	令和6年3月24日(日) 午後2時開演
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール
実施者(団体)	鳥取市少年少女合唱団
補助金額	300千円

鳥取市近辺在住の小学生から高校生までの団員で構成される鳥取市少年少女合唱団の定期演奏会。

「Ⅰ みんなで楽しく」、「Ⅱ 祈りを込めて」では、アニメソングや合唱曲など、団員と、来場された幅広い年齢の方がみんなで楽しくなる曲を演奏した。「Ⅲ 少年少女のサウンド・オブ・ミュージック」では、「ドレミの歌」「エーデルワイス」などおなじみの曲とともに、団員が工夫して作り上げたミュージカルを披露した。また、「Ⅳ 合唱花さき山 …箏、尺八と合唱のコラボレーション…」では、箏の菊弘瀬恭子さん、尺八の安藤正山さんらをゲストに迎え、「花さき山」の物語を合唱や箏の響きと共に表現した。

当日は約600名の来場があり、鑑賞者からは、「皆さんの美しい歌声にうっとりしました」、「選曲がとてもすてきでした」といった感想があり、会場で一緒に歌いたいという声も多かった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【次世代活動者育成支援事業】

事業名	第4回「出逢い…」～未来へ羽ばたくコンサート～
日時	令和6年3月24日(日) 午後1時半開演
会場	倉吉未来中心 小ホール
実施者(団体)	「出逢い…」～未来へ羽ばたくコンサート～実行委員会
補助金額	115 千円

毎年春に開催しているコンサートで、将来音楽の道に進むことを目指し、様々なコンクール等に挑戦している鳥取県中部在住の小・中・高校生が出演し、ピアノなどの演奏を発表している。今年は、音楽大学への進学が決まっている生徒2名も参加した。

普段は異なるピアノ教室でピアノの練習に励んでいる子どもたちが、弾き合わせ会を積み重ね、様々な指導者からアドバイスを受けることにより、お互いに刺激を受け、励ましあいながら成長し、当日の演奏につなげることができた。

当日は約260人の来場があり、鑑賞者からは、「小学生や中学生の子どもたちがそれぞれに作曲家のもつ世界観を表現されていて素晴らしいと思いました」、「子どもさんたちが力をつけて成長されていることがすごいと思いました」、「来年も楽しみにしています」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【周年支援事業】

事業名	第50回記念山陰書人社展
日時	令和5年6月8日(木)～11日(日)
会場	鳥取県立博物館 第1・2展示室
実施者(団体)	山陰書人社
補助金額	100 千円

山陰書人社は、毎年展覧会を開催するとともに、10年ごとに記念展を開催している。

今回は、第50回の記念展として、県立博物館において、大作を目玉として、公募作品も募り、63点の作品を展示した。あわせて、若手の育成を目的として、県内の高校生9名の作品を展示した。また、記念誌を発刊するとともに、九州国立博物館館長島谷弘幸氏を招き、「現代の書道人が、追求すべきもの—不易流行」と題した講演会を開催した。

第2展示室には、大作14点を展示し、県内ではほかに例を見ない展示となり、多くの鑑賞者から称賛の声があった。

会期中に約1,520人の来場があり、「大きな作品、広い空間で迫力があった」、「それぞれ個性的で素晴らしく、書に向かう姿勢がよくわかりました」、「生命力あふれる高校生の作品に、今が凝縮され、素晴らしかった」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【周年支援事業】

事業名	ダンスポケット2023 秋（第45回）
日時	令和5年9月3日(日) 午後3時開演
会場	とりぎん文化会館 小ホール
実施者(団体)	ダンスコング
補助金額	100千円

ダンスコングは、1978年に発足し、コンテンポラリーダンスグループとして、週1回の練習を行い、その成果を年1回の公演で広く発表してきた。毎回、ダンスコングの作品と、それぞれのメンバーが関わっている、年齢、障がいなど様々な個性を持つダンスグループの作品を発表している。45回目の記念公演となった今回は、東京等で活躍中のプロのダンサーに振付を依頼し、ともに踊る企画も行った。

出演者は、障がいのある人とない人が半々くらい、年齢も10～80代と幅広く、年齢・性別・障がいの有無に関係なく、ともに創り踊るオリジナル作品が上演された。フィナーレでは、客席の皆さんもステージに招き、出演者とともに「花は咲く」を踊り、会場が一体となった。

約150人の来場があり、鑑賞者からは「世界観がすごくて見入ってしまいました」、「身体全体で表現することは素晴らしいことだと改めて感じました」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【周年支援事業】

事業名	はまべゆかりのとっとりわっしょい Vol.5
日時	令和6年2月3日(土) 1回目:午後3時開演 2回目:午後7時開演 4日(日) 1回目:午後1時開演 2回目:午後5時開演
会場	パレットとっとり 市民交流ホール(鳥取市)
実施者(団体)	EN+ER 企画
補助金額	100 千円

「はまべゆかりのとっとりわっしょい」は、大阪の劇団で演劇を学んだはまべゆかり氏が、地元の方にも「演劇を身近に感じてもらいたい」という思いで2014年から始めた事業。5回目を迎えるにあたり、『トリシラベ』、『結婚したいなら・・・』、『ヤマハビルテクノサービス』の3作品が書きおろされ、地元・鳥取の出演者に、普段関西地区で活動する俳優が加わり、笑いあり、感動ありのオリジナル現代劇を上演した。

SNS等を活用して幅広く周知を行った結果、「生で演劇を見たのは初めて」という方も多く来場され、4回の公演で123人の来場があった。鑑賞者からは、「ストーリーもテンポも最高。文句なく面白かった」、「鳥取でこういうコメディや関西小劇場の雰囲気味わえると思っていたが、すごく面白かった」といった感想があった。また、コロナ禍もあって久しぶりの開催となったことから、「再開を待っていた」という声もあった。

